

宮前 まさみ

2025年7月発行
第9号

後援会だより

蒸し暑い毎日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
「宮前まさみ」の活動に、いつも深いご理解と心暖まるご支援をたまり、感謝申し上げます。
5月から清野和彦市長・引間淳夫副市長を迎え、秩父市だけにとどまらず、秩父地域にも“新たな風”が吹き始めました。
議会人の一員として今まで以上に気持ちを引き締め、皆さまのお役に立てるよう頑張っております。
今回は本年3月と6月議会での、私の「一般質問」の内容と今後について、報告させていただきます。



2025年3月議会

1 学童保育室の今後

▶・・・「小1の壁」・朝学童に関するアンケート調査
共働きは2022年の1,262万世帯から、2023年には1,278万世帯に増えており、世帯全体の71.2%が共働き世帯となっています。朝学童の設置に対し、昨年9月「こども家庭庁」でアンケートとは別に、本年1月に秩父市独自で保護者のニーズを把握していただきました。
小学校始業前の時間帯に預かりを希望する方は、558人中わずか30名で、有料の場合は17名のみが希望とのこと、朝学童の実施には、もう少し時間がかかりそうです。

2 「秩父市避難行動要支援者名簿」の活用と共助の在り方

▶・・・避難支援者等関係者の負担・個別避難計画
「秩父市避難行動・要支援者名簿」は、「秩父市地域防災計画」に基づき、災害時における安否確認や避難支援などの必要な支援が受けられるように作成する」とされています。
災害時に自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難の確保を図るために、特に支援を要する方が対象で、「大規模災害が発生した際に、避難行動要支援者が安全かつ速やかに避難するには、個別避難計画の作成は欠かせないもの」と認識されているにもかかわらず、令和6年11月での対象者2,837人の内、登録者数は748名で、避難行動要支援者の名簿作りは進んでいない状況です。

3 重層的支援体制整備事業の構築

▶・・・自殺者が多いことに対する状況把握
支援窓口の設置
秩父市では「自殺」に関しては男女共に、統計にある2009年（平成21年）以降15年間ずっと、県平均よりかなり高いパーセンテージを示しています。いわゆる「働き盛り」と言われる10代後半から40代に、なぜ「自殺」が県平均を上回るほどの死因となってしまうのでしょうか。
直接対面だけではなく、メールでも電話でも、チャットなどのリモートでも対応できるような、困っている市民の皆さまや、そのご家族に秩父市全体として寄り添える、そんな支援窓口の開設を、強く要望し続けます。



持続可能な地域医療・介護・支援に向けて、勉強を続けて参ります

2025年6月議会

1 ちちぶ銘仙館の今後とオーラルヒストリー

▶・・・修繕箇所の認識・保全に対する考えや、聞き取り調査の実施
昭和5年（1930）に建てられた「埼玉県工業試験場秩父支場」を再生し、平成14年（2002）に現在の施設「ちちぶ銘仙館」としてリニューアルされました。
今まで何度も修繕していただきましたが、現在でも天井板がずれて穴が空いていたり、ドアもガムテープで補修したまま放置されており、観光客を迎えご見学いただくのに相応しいとは言えない状態で、雨漏りによる展示品への悪影響も出ています。

屋根の修理には時間もお金もかかるので、全体的な保全もお考えいただきながら、修繕への取り組みをお願い致しました。



2 「地域医療連携推進法人」への取組

▶・・・法人化に向けた考え、病院建設計画と連動してのスケジュール
清野市長のマニフェストの最重要項目である「医療・福祉・介護」における「新病院建設」のお話の中で「地域医療連携推進法人」という言葉を、初めて耳にする方も多いのではないのでしょうか。
「地域医療連携推進法人」は、「地域での医療機能の分担や連携を進める目的で、設立母体の異なる法人が共同参画する制度」として、2017年厚生労働省に創設されました。
合併とは異なり各法人の独立性を維持しながら、参加法人同士で連携を強化できるのが「法人化」の大きなポイントで、参入した医療機関・介護福祉施設・関係団体・自治体が、役割分担や業務連携をしながら、限られた医療資源を無駄なく使う「持続可能な医療・介護に向けた取組み」だと理解しています。
「病院建設計画と並行して、法人設立も進めていきたい。」とのご答弁をいただき、「大きな一歩」だと、大変嬉しく思います。

3 「広域連携調整官」の設置

▶・・・今後ますますの広域連携強化に向けて
「地域医療連携」のためにも、秩父地域四町や広域市町村圏組合と今まで以上に連絡を取り合い、意思を確認していく必要が生じます。広域連携強化のために「ちちぶ地域全体」を俯瞰できる存在として、「広域連携調整官」を設置してみたいと考えています。
「広域連携調整官」の設置により、地域医療連携推進法人の設立はもとより、包括ケアシステムなど、一市四町それぞれの自治体が別々に行なっている事業を、今後一定の事務作業など広域でまとめて支援することができれば、「職員が住民に寄り添う時間が増える」とのご意見もいただいています。広域連携を進めて行く一番のメリットは、「業務の効率化と経費の節減」です。

FIND Chichibu (広域秩父産業連携フォーラム) “ちちぶシルク研究分科会” 主催 活動報告、並びに2025年開催予定!

「秩父銘仙を着て“街歩き”を楽しもう!」

2024年10月26日に“第1弾”を行って以降、計4回の“街歩き”を企画し、のべ100名近い皆さまと、一緒に楽しむことができました。
参加のお問合せも多く、今後も企画・配信して参ります。
ぜひお気軽にご参加ください!

第2回・1月25日:「秩父夜街彩散歩・銘仙懇親会」
第3回・4月26日:「寺内織物見学・津軽三味線ライブ」
第4回・6月21日:「秩父文学祭・みやのかわナイトバザール コラボイベント」

「第4回 秩父銘仙販売会」2025.11月1日(土)・2日(日)

@秩父市地場産センター2階ロビー

本年も秩父銘仙の織元や伝統工芸士の皆様のご協力をいただきながら、地場産センター2階のロビーにて「秩父銘仙販売会」を開催いたします。
秩父銘仙の反物はもちろんのこと、帽子やストール、バッグ、お財布などの小物、銘仙万華鏡なども販売予定です。

2年前から秩父市では「秩父銘仙・秩父織物利活用奨励金」を設け、10万円以上の購入者(秩父市内在住)に5万円の補助が出ます。
ぜひこの機会に「秩父銘仙」を手にとってみてはいかがでしょうか。

*奨励金の詳細は、秩父市役所・産業支援課(0494-25-5208)へ。



「第75回全国植樹祭」では、
「秩父銘仙メーブル柄ネクタイ」を、
大野知事、清野市長にもご着用いただきました



『アンガーマネジメント(感情のコントロール術)

無料研修会』5月31日(土)開催

秩父市と秩父市教育委員会のご後援をいただき、開催した『アンガーマネジメント(感情のコントロール術)無料研修会』。市役所本庁舎2階会議室にて、16名の皆さまにご参加いただきました。

「アンガーマネジメント」の言葉は、ほとんどの方が知っていて、逆に驚きました。

「感情」は自分の内側にあるのではなく、自分と相手の間にあるものです。

お話しした“コントロールの実践”を、ぜひ続けてみてくださいね。

今回の研修会は、昨年“アンガーマネジメント・ファシリテーター”10年の活動が表彰された記念に、自主企画したものです。

こんなふうになんて、皆さまのお役に立てれば幸いです。



「無料着付け教室」

～自分で秩父銘仙を着てみよう!～

秩父銘仙を気軽に楽しめるよう、
今年も「無料着付け教室」を開催します。

説明・準備会 9月20日(土)
浴衣練習会 10月3日(金)、4日(土)
銘仙練習会 10月10日(金)、11日(土)

ほっとすばっと秩父館にて、18～20時
先着15名様

参加費無料・要予約
mm@miyamae-masami.com

詳しくは、秩父市報8月号をご覧ください。



「秩父神社の朝清掃」に参加しませんか?

「秩父神社の朝清掃」を毎月一回、満月の朝7時半から実施しています。
多くの皆さまにご協力いただきながら、おかげさまで5年目を迎えることができました。
直接お目にかかってお話を伺う良い機会として、是非お気軽に朝清掃へのご参加をお待ちしております。

2025年下半期の開催日

7月11日(金)・8月9日(土)
9月8日(月)・10月7日(火)
11月5日(水)・12月5日(金)



Facebook・Instagramにて
毎日の活動がご覧いただけます。

宮前昌美
で検索!



「宮前まさみ」LINE Officialアカウント
「ちちぶORIHIMEプロジェクト」への登録を
お願い致します。

ほぼ毎日、地域での活動を中心にFB・インスタにUPしております。
「宮前まさみ後援会」公式ホームページにも掲載しています。
またこのように半年に一度、新聞折込みすることで更にご理解いただけるよう、紙ベースでの活動報告も続けて参ります。
今後ともご支援たまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

最新の活動報告や議会情報などに加えて、
「後援会だより」もLINE配信をしております。
年齢・性別を問わず「宮前まさみ」の活動にご賛同いただき、ご登録いただければ幸いです。
こちらのQRコードを読み込んで
ご登録ください

